

平成28年度

いばらき輝く教師塾

茨城県教育研修センター

第10日 12月3日(土)

<講義>

豊かな心を育むために

講義資料 (pdf ファイル)



茨城県教育研修センター教職教育課
指導主事 糸川 宏

【要旨】

- ・ 道徳教育を通して児童生徒の豊かな心を育んでいく。道徳教育は、学校の教育活動全体を通じて行われる。特に道徳の時間は、その要として重要な役割をもっている。
- ・ 道徳教育は、児童生徒の道徳性を養うことであり、道徳の時間では、道徳的実践力を育成することを目標としている。
- ・ 考える道徳の授業は、子供が自分との関わりで主体的に道徳的価値を考えること、そして、他者と交流し多様な考え方や感じ方と出会うことで、自分の考え方、感じ方をより明確にすることをねらいとしている。

講話:「教壇というステージを、よりクリエイティブに!!」



金原PR企画研究所代表/プロデューサー
金原 榮 氏

【要旨】

- ・ プロフェッショナルになるまでに1万時間かかると言われている。1日3時間の練習を10年間続けると1万時間になる。プロフェッショナルな教師になるためには、学び続けることが大切である。
- ・ 教師は一つの考えに偏るのではなく、多くの人とふれあい視野を広げることにより、子どもたち一人一人の心を感じ取れるようになる。
- ・ 教師とは、人の人生の記憶に残る仕事である。「師」としての心構えを強くもって教壇に立ってほしい。

閉講式

主催者挨拶



茨城県教育庁学校教育部長
森田 充

【要旨】

- ・受講者の感想からは、受け身の研修ではなく、教師になったことを想定した研修の様子が伝わり、有意義な研修になったことが感じられる。
- ・今年度策定した「いばらき教育プラン」を実現するためには、人間性豊かな、情熱に溢れ、指導力のある優れた教師が求められるので、みなさんに大変期待している。
- ・教師という仕事がすばらしいのは、一生懸命やったことが人生のどこかで喜びとなって返ってくることである。教師になるという夢を叶えて、子供たちの人生のお手本となってほしい。

受講生代表挨拶



受講生代表 沢田 侑里亜

【要旨】

- ・特別講演会での場の雰囲気づくりについての話が心に残っており、人間関係の上に成り立つ教育において、教員は笑顔で子供たちを安心させ、居心地のよい場を作ることが大切だと感じた。
- ・ワークショップでは、実際の教育現場の様子を聞くことができ、大変勉強になった。また、熱い教育観を聞くことで自分の考えを深めることができた。
- ・今後教壇に立つ際に、いばらき輝く教師塾で学んだことを実践に生かしていきたい。

受講生のアンケートより

本日の感想

- ・教師は学び続け、人との関わりをたくさんもつことが重要であると改めて感じた。子どもたちの記憶に残るような教師になりたいと思う。【学生】
- ・様々な分野の方と関わり、広い視野で物事を見ることが大切だと思った。【学生】
- ・魅力的な教師であるために、自ら学び続け、もっと自分を磨かなければならないと感じた。【若手教員】
- ・人は信頼できると思った時に初めて相手の話を聞くという話は、児童生徒と教師においても同様であり、信頼関係を築くことが大切だと思った。【若手教員】
- ・教壇に立つ際の心構えや責任について、深く考えることができた。教師として学び続け、自分自身が成長していけるように努力したい。【学生】